

令和6年 11 月6日(水)

グループワーク記入用紙

1グループ

①各自の気になった項目・キーワード

(1) 生きがいづくりと健康づくり・介護予防の推進

②気になった理由・意見交換内容等

◇ 相互の助け合いがあるといい。

- ・こども食堂
- ・おかずのおすそ分け、気軽に集まって情報交換

◇積極的に参加する人より、関心が低い人、行けない人をどうつなげていくかが課題

- ・つながるきっかけ、行ってみようかなと思えるには、ハードルを低くし、ふらっと立ち寄れることが必要。実態調査結果からも、地域活動に参加しやすい条件は、「時間や期間に縛られないこと」
- ・食料がもらえると生活困窮者は集まる。
- ・各種見守り訪問では、何か持っていく。まず、顔みしりになることからはじめ、継続した会話ができるように関係性を維持する。
- ・コロナで昼食会は中止になったが、お出かけ配食に形態を変更し、実績が伸びている。
- ・気軽な場に、チラシ等を配架し、興味関心があれば参加しようと思うこともある。
- ・季節感のある催し(体育祭、盆踊り)は、参加ではなく、「ちょっと見にいってみよう」と思う高齢者も多い。
- ・学生との交流は喜ばれる。

◇支援者

- ・イベントの一部を担ってもらい、接点を持つ。例として、イベント会場来場者の自転車の整理。すべての世代を巻き込む。
- ・住民だけでなく事業所の力を借りる。
- ・いき百の場所を事業所で借りられる、介護支援サポーターとなって事業所の力になってもらえる等地域資源をうまくつなぐ。
- ・地縁組織と志縁組織のつながりが少ない。地縁組織は行き詰まりがある、志縁組織はそれぞれ理念があり、合い入れるには難しい場合があるが、ネットワークの拡がりがある。
- ・地域資源間のコーディネーターは、生活支援コーディネーターが果たせるのではないか。期待するところ。

◇主観的健康感が高い人は幸福感が高いという実態調査結果から、誰と、どのような取組が効果的に進められるか。